

ONE

エンジニア座談会／営業対談／インタビュー

CTCの強みの一つは、プロフェッショナルとして成長を続ける社員たちです。

たくさんの新しいものを生み出すためにどのような背景を持つ人たちが、
どのような役割を、どのように果たしているのか。

様々な場所で働く社員たちを知ることで、CTCの今が見えてきます。



TEAM





情報通信事業グループ
情報通信第2本部

佐々木 健太

インフラエンジニア
理系学部卒
2023年入社

挑戦を後押しする自由な風土で 好奇心を自己成長の糧とする

最先端の技術で応える CTC 社員の約7割はエンジニア。

日頃はどうのような仕事をして、キャリアを描いているのか。

技術への向き合い方、仕事のやりがい、社風などを4人のエンジニアが語りました。

入社へのきっかけと、現在までの キャリアを教えてください

鈴木 私はCTCのコポレートサイトで、海外で活躍している社員の記事を読んで、自分も海外に関わる仕事してみたいと憧れたことが入社へのきっかけでした。入社後は、伊藤忠商事の海外拠点向け基幹システム(SAP)の保守業務を担当しました。その後、SAPの導入やバージョンアッププロジェクトを担当して、香港にあるCISD (ASIA)^{*1}への出向などを経て、現在はSAPの保守業務やレビューなどを担っています。

尾科 就職活動では、幅広い製品を扱う技術力の高いIT企業への入社を志望しており、活動中にCTCの方々から「良い会社だよ」と勧められたことが決め手になりました。配属先は製品・サービスを主管する現在の部署で、製品やサービスの技術的な検証や社内の問い合わせ対応で販売を支援しました。現在は、新規ビジ

ネス担当として、主管製品とAIビジネスを推進し、その一環でAIを用いた業務効率化ツールやGPUサーバ構成作成などを手掛けています。

高橋 前職でCTCの方々と一緒に仕事をする機会があり、お客様の複雑な要件に対して案件をやり切る責任感、提案力や実行力の高さに魅力を感じました。マルチベンダーとして幅広い業界や技術領域に携われる点から、多様なキャリアパスを描けるのではないかと考えました。入社後は、様々な業界のお客様向けにITアーキテクチャ検討やスクラム開発、システム保守開発を経験し、現在はコンサルタントと兼任で、お客様の業務効率化・高度化を目的に生成AI基盤の構築や運用に携わっています。

佐々木 前職は大手SIerのグループ会社でしたが、いずれはプライムベンダーでプロジェクトマネージャ(以下、PM)に就ける会社を志望していました。CTCはお客様の事業が多岐にわたり、

実績も豊富です。応募時の対象案件だった「大手通信会社の開発プロジェクト」にも惹かれました。現在は、お客様の本社移転に伴うネットワークの再設計・構築を主務としながらPMにも領域を広げています。

入社後の印象はいかがでしたか

鈴木 希望通り海外に関わる部署に配属されましたが、実は私は英語が得意ではなく、先輩の流暢な英語に圧倒されました。業務は、保守運用の中でもユーザーからの質問対応や要件定義の担当だったので、文系出身の私にもなじみやすかったのですが、私は性格的に慎重で、自分で判断を下すことが苦手なため、新人時代はかなり悩みました。先輩の励ましのおかげで乗り越えられたので、面倒見の良さには感謝しています。

尾科 入社後の第一印象は「わからない!」に尽きます。ITの知識が何もなく、配属された部署

^{*1} CISD (ASIA)は香港を拠点とする伊藤忠商事株式会社とCTCの合併会社。



リテール&サービス事業グループ
リテール&サービス企画本部
主任

鈴木 里枝

アプリケーションエンジニア
文系学部卒
2006年入社

情報通信事業グループ
情報通信ビジネス企画本部

尾科 光太郎

AIエンジニア
文系学部卒
2023年入社

が何をするのも不明で、まずは製品を1つ担当して、その知識を身に付けつつ社内からの問い合わせに対応することから始めました。不明な単語はひたすら調べて先輩に質問して、不明点を潰していきました。

高橋 転職活動中は、「CTCは体育会系」だと聞くこともありましたが、実際には上司や先輩のサポートが手厚く、これはありがたいギャップでした。CTCにはスペシャリスト職とマネジメント職がありますが、両者共通して様々な製品やサービス知識を習得し、複数部署と連携して、お客様に最適な提案や価値を提供することが求められます。その点では常に学び続ける姿勢は不可欠ですが、教育制度や部署横断でナレッジ共有の仕組みが整っており、非常に成長しやすい環境だと感じています。

佐々木 私は入社前、配属先はかなり忙しいと聞いていたので、疲れた方が多いのではないかと

と予想していました。ところが、皆さん元気が良くてガッツがある。飲み会も盛んで、他部署ともコミュニケーションをよくとり、活気があって楽しいです。

エンジニアの仕事の面白さ、やりがいは何ですか


高橋 CTCは、コンサルティングから設計、構築、開発、保守・運用まで一気通貫で携われる点が特徴です。携わった仕事がエンドユーザーや社会の価値につながっていることを実感できます。現在は全社横断で様々な案件を支援しており、コンサルティング、インフラ、アプリケーションなどの専門性を持つ社内外のメンバーと連携し、推進役として大型案件を成し遂げた時の達成感は大きいですね。

佐々木 私はサーバからネットワークのエンジニアに変わり、システムを別の視点から触るうち

に、どう動いているのか全体像が見えて業務が面白くなりました。また、全体が見えると、「システムをこう設計すると良いのでは」と思考するようになり、プロジェクトを俯瞰して着地させるPMに興味湧きました。裁量を持ってマネジメントできることもPMの面白さで、全てをやり切って検収をいただいた瞬間は達成感があります。

尾科 私は、自分が支援した案件が導入に至ったことを聞くと嬉しいですね。入社2年目には、社内でのナレッジが少ない製品のバージョンアップで、初めて自分でプロジェクトを動かしました。お客様と同じ環境を構築して検証し、問題点や手順を確立して、学んできたことをアウトプットできた時もやりがいを感じました。また、エンジニアは最新の製品や技術に触れるので、これも楽しさです。

鈴木 私はこれまで培ってきた知見を活かしてプロジェクトを移り、成長を感じながら仕事をし



デジタルサービス事業グループ
DX コンサルティング本部

高橋 幸太郎

コンサルタント
理系学部卒
2019年入社

ていけることにやりがいを感じます。入社4年目にはインドへの導入プロジェクトを任されて、年間10回ほどインドの顧客先に出張しました。現地のユーザーとプロジェクトを進めるのですが、難解なインド特有の英語や異なる商習慣に直面し、鍛えられました。その後、CISD(ASIA)への出向で、国や世代を超えて色々な方と交流する機会を得られ、貴重な経験をさせてもらいました。

CTCでエンジニアとして働く 魅力は何ですか

高橋 「自ら手を挙げれば、挑戦させてもらえる」風土があることですね。私は社内公募制度を活用して希望の組織に異動し、健診結果や生活習慣などのデータを統合・分析するPHRプラットフォームのプロトタイプ開発に携わりました。お客様のAI基盤と連携し、将来の健康状態やリスクを予測・分析する案件で、企画から開発まで一貫して担当し、大きな経験を積むことができました。

鈴木 私も海外に関わる仕事をしたいという希望はずっと叶えられています。また、これは全職種対象ですが、スキルアップのプログラムや研修が充実していて、私は英語のプログラムで支援を受けました。TOEICを定期的に受験して力を付ける仕組みも整っています。

尾科 挑戦を後押ししてくれる風土は、同感です。上司に「これがやりたい」と言えば、意見を尊重してもらえる風通しの良さがあり、スキルアップの支援も充実しています。Dojoという組織横断のコミュニティでは、自分が普段は関わらない技術領域でも最新情報を手に入れて常にアップデートできますし、製品担当やメーカーの勉強会も頻繁です。

佐々木 私も「PMになりたい」と上司に伝えて研修を受け、案件を持たせてもらっています。また、頑張った人を正当に評価する社風も良い点ですね。プロジェクトによっては現場に入る時間が長いので残業がありますが、頑張れば認めてもらえるので、働きがいがあります。

高橋 あとは働きやすい制度ですね。私はこれまでに2回、育児休業を取得しましたが、上司やメンバーの理解と協力を得ながら安心して育児に専念できました。現在も育児の都合で有給休暇やテレワークを活用しますが、柔軟に調整できる環境があり、仕事と家庭の両立という面でも助けられています。

鈴木 私も産休・育休と合わせて1年3か月ほど休みを取り、現在は短時間勤務をしています。復職時には上司との面談で希望を伝えて、現在の業務に就いています。子どもの発熱などで突発的な休みは多いのですが、皆さんの

理解に支えられています。

入社を検討している方へ、 メッセージをください

高橋 大規模で社会的インパクトのある仕事に挑戦でき、風通しの良い組織風土で成長できる環境があります。強みを活かし、新しい技術や領域に挑戦したい方、ぜひ一緒に価値ある仕事に取り組みましょう。

鈴木 自分が興味を持っていること、やってみたいと思う気持ちが仕事の原動力になるので、ぜひご自身を分析してみてください。CTCは、女性でも文系出身でもロールモデルとなる先輩がいて、キャリアプランを描きやすい会社です。

尾科 CTCでは、やりたいことに挑戦させてもらえる風土があります。研修制度も整備されているので、未経験だからITは難しいというハードルはありません。共に働けることを楽しみにしています。

佐々木 私が所属する部署では、「自分の技術プラスαの技術を身に付けよう」という目標を掲げています。CTCのエンジニアは幅広い技術に精通した方が多いと感じます。多様な技術を身に付けて活躍したいという方は、ぜひ私たちとチームを組んでいきましょう。



経営企画グループ
経営企画本部
主任

小堀 優太

営業
文系学部卒
2009年入社

海外駐在で得られたマインドを
今後も活かしていきたい

タイミングが重なり、 念願の海外へ

幼少時の海外生活や高校時代の留学経験から、海外勤務の機会がある会社を希望していました。営業職に興味があり、商社を中心に説明会などに参加し、CTCを知りました。それまでIT分野に詳しくはなかったのですが、企業研究で、この分野にポテンシャルを感じ、海外との取引を行っているCTCを志望しました。最初の配属は大手通信キャリアを担当する部署で、営業が20名余り、エンジニアは数百名という大組織で、扱う案件も大規模でした。6年目に入るタイミングで、上司にジョブローテーションの希望を聞いていただく機会があり、海外勤務に興味があることを率直に伝えました。ちょうどその時期、CTCがインドネシア進出検討のタイミングで、すぐに異動が決まりました。

厳しくも楽しめた孤軍奮闘

当時、CTCの海外拠点はアメリカ、マレーシア、シンガポール、タイにありましたが、インドネシアは検討段階で、2015年の1年目は長期出張を重ねて調査などを進めました。インドネシア進出の方向性が決まった翌年から、伊藤忠インドネシア会社に出向する形で、現地に私1人で駐在しました。私のミッションは現地法人の設立後、すぐに案件を動かすための新規顧客の営業・開拓でした。エンジニアなしの営業は

苦劳しましたが、幸い現地には多くの日系企業が進出しており、そうした企業から発注を受けることができました。実案件で協業する現地パートナー会社の開拓・選定も担当で、日系企業が求めるクオリティを提供できるよう尽力しました。おらかな国民性で、その時間感覚にも最初は少し戸惑いました。

2017年8月にCTCの現地法人を設立以降は数名体制で準備を進めましたが、現地企業を正式に買収し、本格的にCTCがインドネシアでビジネスを始動したのは2019年です。それまで、数名で会社を代表して仕事をしなくてはならなかったで、重い責任を負っていたその時のマインドや経験は、私の財産になりました。また、文化が違う人たちと一緒に仕事をする、互いに尊重しながら仕事を進める、という経験ができたことも良かったと思います。

これからは後輩に アドバイスをする立場として

駐在5年目を迎えた2020年3月、コロナの影響で帰国しました。現在は、日本側で海外の事業会社を管理する仕事をしています。やりがいにはありますが、次はマネージャ職や経営企画として海外赴任をするのが目標です。

お客様はもちろん、職場でも人間関係を大切にしてきました。これまで、先輩方に教えていただく立場でしたが、今後は後輩にアドバイスする立場として、コミュニケーションの仕方にも意識して取り組んでいきたいです。

互いの役割を果たしつつ
連携し合う
社内の多様なつながりが
強みに

情報通信事業グループ
情報通信ビジネス企画本部
情通事業開発部長代行
兼 ビジネスデザイン第1課長

山本 玲緒奈

製品・サービス主管
文系学部卒
2002年入社

ひと口に「営業」と言っても、お客様を担当する営業と、製品やサービスを担当する営業とでは、その役割は大きく異なります。互いがどのように連携し合い、それぞれにどんな難しさや、やりがいがあるのか。新卒入社以来、製品やサービスを主管する営業としてキャリアを重ねてきた山本さんと、他業界からキャリア採用で入社したアカウント営業の新保さんに聞きました。

入社のかきかけと、現在までの
キャリアを教えてください

山本 英語を活かせる仕事をしたいと思い、当時から海外の製品ベンダーとネットワークを持ち、製品を輸入していたCTCに入社しました。IT業界は、当時は業界として新しかったので、女性の働きやすさという点で期待するところもありました。

新卒で入社して、製品やサービスを主管する現在の営業部署に配属され6年、そのうち1年半ほどはお客様先に常駐していました。2007年に夫の海外駐在に同行することになり、当時は現在のような休職制度がなかったため一度退職をし、帰国後の2011年に縁あって、再びキャリア採用の形で入社しました。担当する製品やサービスは違いましたが、以前と同じ部署に戻ることができ、経営企画部などに異動後、現在は、また同じ部署に戻り、新規ビジネスの開拓を中心に担当しています。

新保 私の前職はOA機器の営業で当時は、北海道で働いていました。20代のうちに都部署に出てもっとチャレンジしたいという思いがあり、それまでは中小企業向けの営業でしたので、エンタープライズ企業など規模の大きなお客様を担当してみたいと思ったのが入社のかきかけです。初めは山本さんの仕事に近い、製品やサービスを主管する営業で採用されたのですが、2年ほどして少し違うことをしてみたいと上司に相談し、勧められたのが、お客様と対面するアカウント営業でした。現在は金融系のお客様数社を担当し、既存のお客様の案件対応や新しい領域の開拓、また新規顧客の獲得に取り組んでいます。

お2人の業務の流れや役割を
教えてください

新保 お客様の要望に応えるのが私たちアカウント営業です。お客様から課題を聞き取り、

どうしたら解決できるかを考え、社内の様々なチームと連携して、最適な解決策をお客様に提案し、受注につなげるというのが、基本的な流れです。

お客様に対しては、コミュニケーションを重ねて関係性を作りながら、その意図を正確に把握する必要があります。同時に、製品やサービスを主管する山本さんたち営業をはじめ、社内の人たちに協力を仰ぎ、必要なメンバーを集め、チームを取りまとめ、中心になって案件を進めていくのがアカウント営業の仕事です。案件ごとに最適な製品やサービスを選び、どんなスキルを持ったエンジニアが必要なのかを探します。そのため情報収集も自分の役割です。大きな案件だと10近い部署にまたがり、20~30人のチームになることもあります。

山本 提供する製品やサービスの責任を担うのが私たち製品・サービス主管です。どんな要望にも応えられるように、ベンダーの窓口となっ

金融事業グループ
金融 NEXT 営業本部

新保 菜津紀

アカウント営業
文系学部卒
2023年入社

て、契約を進めた商材の販売促進を行ったりします。アカウント営業に同行してお客様に製品やサービスの説明をすることも私たちの仕事です。

新たな製品やサービスを探したり、エンジニアを育成したり、新たなビジネスになりうる分野も開拓します。私の所属部署では契約ベンダーが50社ほどあり、製品やサービスについてはもちろん、契約や法律への適用など幅広い知識が必要です。製品やサービスを扱うにはそれぞれのベンダーの方針や基準に従う必要があり、認定資格の取得を求められる場合もあります。チーム全体で常に最新技術のアップデートをしていかなくてはなりません。

それぞれの業務の難しさと、その乗り越え方は？

山本 海外商材の場合、ベンダーが考えていることと、日本のお客様が求めていることの間には結構ズレがあるので、そこを私たちが埋めて日本仕様にするのも大事な仕事です。両者で折り合うところが見えず、お客様側の立場で発言するアカウント営業とベンダーとの間で板挟みのようになるのが難しいところです。そんな時は、お客様の真の目的は何か、違う方法はないか、粘り強く適切な落としどころを探していきます。

新保 確かにアカウント営業は、お客様の立場

に立って、社内の人をお願いをして進めていかなければなりません。お客様と社内の双方で、うまくコミュニケーションをとっていかねばならない難しさがあります。

心掛けているのは、とにかく「相談をすること」。自分から発信すれば、周囲のメンバーが助けてくれます。アカウント営業は人脈ゲームみたいなところがあるので、どんどん知り合いを作って、社内の色々な人と仲良くなっておくことが必要ですね。

山本 直接関わっていない“斜めの人”が助けてくれることはよくありますね。

新保 そうなんです。飲み仲間だと思っていた人に相談したらヒントをもらえたということもありました。

営業の仕事を通して得られた成長や、やりがいを教えてください

山本 これまで製品やサービスの営業を軸に、様々な経験をすることができました。その都度、新しい人との出会いがあり、たくさんの刺激をもらってきました。これは、事業領域の広い会社のメリットだと思います。

大きな案件が受注でき、無事導入できた時はやりがいを感ずます。特に自分が「これはいいな」

と思った製品やサービスが世に出た時は嬉しいです。

新保 CTCは、自分で「これをやりたい」と手を挙げれば、やらせてもらえることが多い。私も入社1か月後には、社外向けのイベントに講演者として登壇していました。そうした挑戦が、学びや成長につながっていると思います。

私も山本さんと同じく、大きな案件が受注できた時はやはり嬉しいです。何よりお客様から言われたことをやるだけでなく、自分がお客様に提案したものが形になるのが一番楽しいですね。

学生の方へメッセージをお願いします

山本 営業には私たちのような文系出身者も多く、学びの機会や活躍のチャンスが用意されているので、やる気さえあれば、常に学び、成長できます。女性の働きやすさという点でも、支援制度は整っていますのでご安心を。私もこれまで、制度という制度のほとんどを使ってきました。ライフステージが変わっても、安心して働き続けられる会社だと思います。仕事をする上で、特に男女の別を感じたこともありません。

新保 人が好きな人、ワクワクすることが好きな人はぜひ、CTCと一緒に挑戦し、成長していきましょう。

エンタープライズ事業グループ
自動車本部

山口 剛気

アプリケーションエンジニア
文系学部卒
2021年入社

地域拠点だからこそその 大きなプロジェクトとやりがい

■自分が成長できる舞台を求めて

私は自動車本部のエンジニアとして勤務しています。新卒で入社して5年目の今年から、AIデジタルイノベーション部に所属していますが、携わっている案件はAI関連ではなく、ローコードのプラットフォームツールを用いたアプリケーション開発です。

CTCを志望したきっかけは就職活動時の冬のインターンシップへの参加です。“就活”の軸としていた「自身の成長を確かな成果として実感できる」企業をと考えていたのですが、CTCのインターン経験で、この会社でなら自分の考える働き方を実現できそうだと感じました。

■名古屋オフィスに配属されて5年

入社後の研修を終えて、配属されたのが名古屋オフィスにある自動車業界をお客様とする部署でした。情報専攻でもない文系出身の私ですが、世界的規模でビジネス展開されている企業を担当する機会に恵まれたのは、面談の際に「大きなプロジェクトに参加して、働きがいを実感したい」という思いを伝えていたからだと思います。私たちのお客様には、課題を徹底的に追求し本質を見極める文化があります。さらにAIを活用した新たなモビリティ社会への挑戦など、最先端を走るお客様と共にビジネスをするためには、私たちも同等以上の水準でなければならないと、常に気を引き締めています。配属発表があった当初は初めての1人暮らし

に不安もありましたが、営業、エンジニア含め約10名の同期と一緒にでしたし、住まいも会社の近くだったので、名古屋での新生活は何不自由なくスタートできました。仕事に関しては、最初に担当した案件では初めてのことばかりで右往左往していたことを覚えています。先日、当時一緒にお仕事した方から「この5年で見違えるように成長した」というお言葉をいただき、少しは成長できたのかもしれないと嬉しく思いました。先輩方から地域拠点の方が個人個人の裁量に任せられる範囲は大きくなると聞いているので、その環境も味方にし、より成長していきたいです。

■人間関係が作り出す、働きやすい職場環境

仕事を始めるまではエンジニアは、パソコンに向かってばかりの仕事だと思っていました。しかし実際は、人との関わりが大切な仕事だと感じています。仕事を進める中でわからないことや相談したいことは必ず出てきます。ですから営業、エンジニア、さらにお客様まで、「チームワーク」にも似た話しやすい関係作りがとても重要なのです。他の勤務地を経験していないので比較はできませんが、当地はアットホームな人間関係が築きやすいので、その点でも働きやすいと感じます。今後も、人との関わりを大切にしながら、その輪を広げていくことで、より規模の大きなプロジェクトに携わり成果を上げたいと思っています。

広域・社会インフラ事業グループ
中日本技術本部

森本 雅夕

インフラエンジニア
理系学部卒
2023年入社

私の働くオフィスには
若手が育つ土壌があります

物理化学の研究室から ITの世界へ

大学時代は、ITとは関係のない物理化学の研究室にいました。就職活動をする時は、どの業界でどんな仕事に就くべきか決められず、むしろ、どんな業界にどんな仕事があるのか情報を集めようという気持ちで、“就活”をスタートさせました。色々な企業の説明会などに参加して気付いたのは、どの業界であってもこれからはITの技術や知識が必要だということです。中でもお客様の業種が幅広く、様々な技術や製品に触れるチャンスが多いと感じたCTCを志望しました。

着実にステップアップを重ね、 計画を実現

研修後、名古屋の中日本技術本部に配属され、主に自治体や教育関連機関のお客様を担当しています。配属先ではOJT制度の中で、3年間の計画を立てるといったものがありました。立てた計画を毎年振り返りながら成長していくプログラムなのですが、私は、2年目には、PM(プロジェクトマネージャ)の下でリーダーとして活動し、3年目でPMとして自立するという計画を立てました。当時は、本当に実現できるのか不安でしたが、今年はその3年目で、新人の頃に立てた計画を全て実現できました。CTCは様々な働き方が可能で、リモートワークもできますが、私は仕事の進めやすさや相談のしやすさから、

ほぼ100%出勤して働いています。研修も充実していて、「これをやりたいです」と手を挙げる人を応援する企業文化のおかげで、着実に成長し、計画も達成できたと感じています。

任せられることで、 得られる達成感

今年も、自治体のお客様の小規模な案件ではありましたが、具体的には、RFP(提案依頼書)の対応に始まり、お客様の要件を伺い、設計し、テストして、運用の説明をするところまでの一連を、担当しました。まだまだ、周りの方々に助けていただきながらですが、プロジェクトを任されてPMとしてエンドユーザーであるお客様に寄り添いながら運用説明や不明点に対して回答するところまでできたことで、達成感を得られました。若手がここまで担当させてもらえるのもCTCの企業文化だと思いますが、さらに現在の部署は、先輩にフォローいただきつつ任せてもらえる範囲がとても広いので、やりがいを感じています。仕事には技術が必要ですが、調整や交渉することも多く、コミュニケーション力も必要です。今年も3年目のキャリア研修があり、さらにPMとして経験を積んで、バイネーム(指名)でお仕事を発注していただけるようになることを目標にしました。新しい目標が達成できるまで、どのくらいかかるかわかりませんが積極的に自分を磨きつつ、これからも周りの方々と協力しながら次のステージを目指していきたいです。



CROグループ
みらい研究所

佐々木 友也

AIエンジニア
文系学部卒
2019年入社

”みらい“の市場創出に挑む
行動を力に、自分のスタイルで

文系からAIエンジニア、 さらに研究員へ

私は文系出身ですが、学生時代にゲームアプリの自作に夢中になり過ぎて、留年した経験がありました。そんな自分を面白がってくれたのが、CTCでした。アプリ開発ができ、周辺領域も含めて色々な経験ができる環境と、インターンでの経験を通して感じた闊達な会社の雰囲気惹かれました。

最初は「セキュリティビジネス推進部」に配属され、次に、当時できたばかりだった「Buildサービス部」でクラウドネイティブなアプリ開発に携わりました。その後は「AI・先端技術部」でAIの研究開発に携わり、2024年からは「みらい研究所」に所属して、現在は週の半分ほどは慶応大学のAIセンターで教授や学生の方々と産学共同研究を進めています。

制度を活用し、 仕事と大学院を両立

Buildサービス部では、チームリーダーも経験し、チームを運営していく難しさが大きな学びとなりました。並行して2023年からは、何か新しいことがしたいと思い大学院を受験し、AIとソフトウェア工学の交差領域の研究に取り組みました。スライドワーク制度を利用して昼過ぎまでは仕事、午後には大学院に通うという生活の中で、時間の使い方学ぶことができました。このような挑戦を許してくれた上司や同僚には感謝しかありません。

専門領域を変えながらキャリアを積む中で、その都度必要とされる知識やアウトプットの質は変わっていましたが、「何事もやってみればできる」という言葉を信じ「まずは手を動かして試してみる」ことを心掛け、興味ある分野に飛び込み続けてきました。経験を通して「自分のキャリアは自分で作っていくものだ」と実感できたことが私にとって一番の成長です。

キャリアの幅を広げられる 多様な選択肢

CTCは、キャリアの選択肢が広く、活躍の場を見つけやすい会社です。1社の中でこのようなキャリアチェンジを経験してこられたのも、多様な事業領域を自社で持っているCTCならではのと思います。また、「これに挑戦してみたい」という思いを、実際に何かを作ったり資格を取ったりして行動でも示せば、柔軟に応じてくれて、応援もしてくれる懐の深さがあります。社内では仲間と出会う場やイベントも多く、部署を横断してつながりを作れる機会があり、次のチャレンジにつながることも少なくありません。

「みらい研究所」は、20～30年先の未来を見据えた新たな市場創出を使命とし、自由な発想で世の中のないものを生み出していくことが求められます。既存の枠には収まらないような、社内でもよりすぐりの面白い人たちが集まっています。皆それぞれの分野の最先端に挑戦しており、日々たくさんの刺激を受けられる楽しい環境です。



エンタープライズ事業グループ
科学システム本部

永野 美貴

サイエンスエンジニア
理系学部卒
2009年入社

ライフステージが変わっても
科学・工学分野で、挑戦を続ける

科学の専門性を活かし、
社会課題を解決

大学では理論物理学を専攻していたので、科学技術計算に関わる企業やSlerを中心に就職活動をしました。中でもCTCIには、Sler業界には珍しく科学・工学分野に特化した部門があり、自分のスキルを伸ばしながら新しい分野に挑戦できると感じました。

この「科学システム本部」では、科学・工学系の解析、シミュレーション技術で、「資源・エネルギー」「原子力・プラント」など幅広い領域にわたる社会課題の解決に取り組んでいます。入社後は、その中でも超音波や電磁波の伝搬シミュレーションを行うチームに配属され、超音波センサーや非破壊検査の解析に携わっていました。現在は主に原子力分野の耐震計算を担当するチームに異動し、プロジェクトマネージャを担っています。

お客様の要望に応える難しさと、
エンジニアとしてのやりがい

以前のチームでは、超音波・電磁波ソフトウェアパッケージの自社開発に始まり、お客様の保守サポート、さらには新規提案と、複数の業務に関わり様々な経験を通して多くのことを学びました。特に苦労したのは、お客様への対応です。お客様の要望をくみ取りきることができず、担当を続けられるか悩んだ時は、上司に「一緒に頑張ろう」と励まされフォローして

いただいたことで、乗り越えることができました。お客様の要望に真摯に対応することで、最終的に「担当があなたで良かった」と言っていたことは忘れられません。

この経験は今も役立っています。耐震分野は新たな挑戦でしたが、一から教えてくださった先輩や同僚のおかげで、推進することができています。重要な社会インフラに関わり、エンジニアとしてその一端を担っているという実感はモチベーションにもつながっています。

柔軟な働き方で、
キャリアを描き続ける

科学システム本部では、メンバーのスキルアップと情報共有を目的に、よく勉強会が開催されます。チーム内の対話を大切にする文化もあり、自然に学び成長できる環境があると感じます。

また、ライフステージが変わっても、働きやすい会社だと思います。出産後の復帰率はほぼ100%ですし、私も産休・育休を2回取得して復帰した後は、時短勤務制度を利用して仕事を続けてきました。生活環境が変化する中でも「エンジニアとして働き続けたい」という気持ちを上司にくんでいただき、科学システム本部内で働き続けています。これからも女性エンジニアのロールモデルとなれるよう、マルチな分野で活躍できるエンジニアを目指して成長していきたいです。